uchida Title:道へき・複連　128号.ec6 Page:1 Date: 2007/03/14 Wed 22:04:43

道へき・複連
道へき・複連情報

発行者
北海道へき地・複式教育研究連盟
www.hamanasu.com/dohekiren
委員長　梅木登喜雄
編集責任者　油谷諭
印刷所　土田工房
勇払郡安平町早来栄町19 Tel(0145)22-2023
題字　書家　濱谷彩鶴（はまや・さいかく）氏

実践研究と教育条件整備運動の両輪で課題解決の展望と新たな教育をめざす！

北海道へき地・複式教育研究連盟委員長　**梅　木　登喜雄**

平成18年度の活動を終えるにあたり、全道各地の会員の皆様にあらためて感謝を込め、ご挨拶を申し上げます。

今年度は、第55回全道へき地複式教育研究大会根室大会が、根室管内1市4町を会場に全道各地より多くの参加者を得て終了することができました。根室複式教育連盟並びに根室大会実行委員会の皆さんの誠意ある取組と確かな実践に感謝し、衷心より敬意を表します。

更に、根室大会を引き継ぎ、次年度全道大会を開催する空知地区では、9月から11月にかけてプレ大会が開催され、組織及び研究の体制が着々と進められています。第7次長計の研究の深まりを一層期待するものであります。

また、10月には第22回実践研究発表大会が昨年に引き続きライフォート札幌で開催されました。全道4地区からの実践発表と研究協議、教育大学旭川校の村田育也助教授をお招きしての情報教育関連の講話もいただきました。研究大会とは違った実践発信の場として大いに成果を上げているものと自負しております。

さて、本来なら平成20年1月実施予定の「へき地学校等の級別指定の見直し」についてでありますが、ご承知のように道教委は、その実施の見送りを決めています。文科省の次期改定時に合わせるとのことでありますが、中教審の動向もあり、文科省の実施時期も不透明であります。へき地の現状に見合った指定基準の改善が一層望まれるところであり、そのために関係団体・関係機関と共に引き続き要望活動を進めていきたいと思います。また今後も、へき地手当に関する「指定基準の改定」と合わせ、「級別指定の見直し」の動向を注視しながら、連盟としては、全へき連、関係各団体と連携を取りながら、この問題について、各地区連盟との情報の共有に努めたいと思います。

当連盟は、結成以来、教育研究を本分としながら、一方で教育条件整備の運動を並行させながら歩んできた団体であります。今後も全道の仲間の皆様とこの考え方を基盤に、道へき・複連と全道各地区の連盟の発展のために尽力して参りたいと思います。

今年度ご支援・ご協力をいただきましたことに感謝とお礼を申し上げ、ご挨拶と致します。